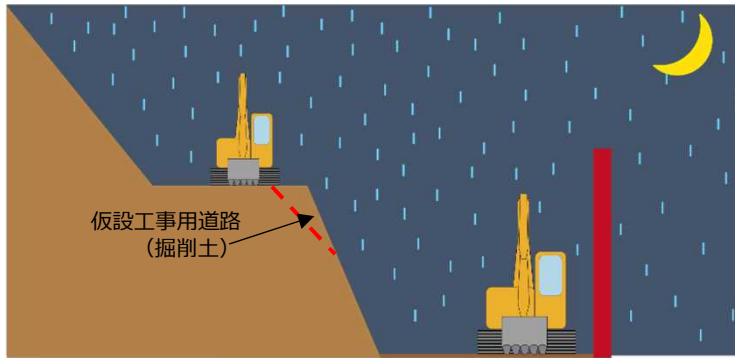


施工計画を無視し、重機転落事故が発生

～計画は守らないと意味がありません！！～



【事故概要】 トンネル工事に先立つ坑口斜面整備工事において、仮設工事用道路上に停めていた0.45m³級バックホウが、夜間の降雨により緩んだ掘削土の崩壊で法面下へ横転、別の0.75m³級バックホウに接触して、静止した。

【被害状況】 バックホウ2機損傷。（作業前であったためオペレーターは乗車していなかった）

- 【主な要因】
- ①施工計画では掘削土砂は、その都度キャリーダンプで搬出することになっていたが、仮設工事用道路及び法面部に仮置きした状態になっていた。
 - ②作業後のバックホウの駐車場所について、指導されていなかった。
 - ③夜間に降雨が予測できたにもかかわらず、仮設工事用道路上という不安定な場所にバックホウを駐車させたまま、前日の作業を終了した。
 - ④重機の転落防止措置（路肩明示）がされていなかった。

施工計画書・作業手順書は遵守しましょう



- 施工計画書・作業手順書は、工程を管理をするためだけでなく、作業を行いやすくする、疲れを少なくすることで、災害の原因を減らし、不安全な状態や行動を減らすことも目的となっています。
- 関係者全員がその内容を良く理解し、実行することが重要です。**現場に合っていない場合や現場条件が変化した場合は速やかに見直しをするようにしましょう。**
- 見直しをする際には、管理者だけではなく、作業員の方からも気づきや要望・改善案を出し、**現場全員の参画で見直しを行う**ようにしましょう。

土砂崩壊は予測が困難だからこそ、安全管理が重要です



- 土砂崩壊はメカニズムが複雑であり、予測が困難です。たとえ小規模な崩壊であっても逃げる時間がなく、人命にかかわる重大な事故に結びつく恐れがあります。これを回避するためにも**日々の安全管理が重要**です。
- 掘削作業時には、**定期的に地層や地質の状態、き裂、含水、湧き水などの状況を点検し、記録**しましょう。定期点検時でなくても、**降雨の後には異常がないか点検**しましょう。
- 土砂崩壊による被災を防ぐため、**土止め支保工は適正に設置**しましょう。
- 安定勾配を確保していても、法肩付近に資材や掘削土砂を置いたり、重機を配置したために法肩から崩壊が発生することがあります。**法肩を明示して、近づかない**ようにしましょう。
- 重機の移動は土砂へ影響を与えます。地形や地盤の状態に応じた制限速度を定めましょう。

重機の取り扱いは何時でも慎重に



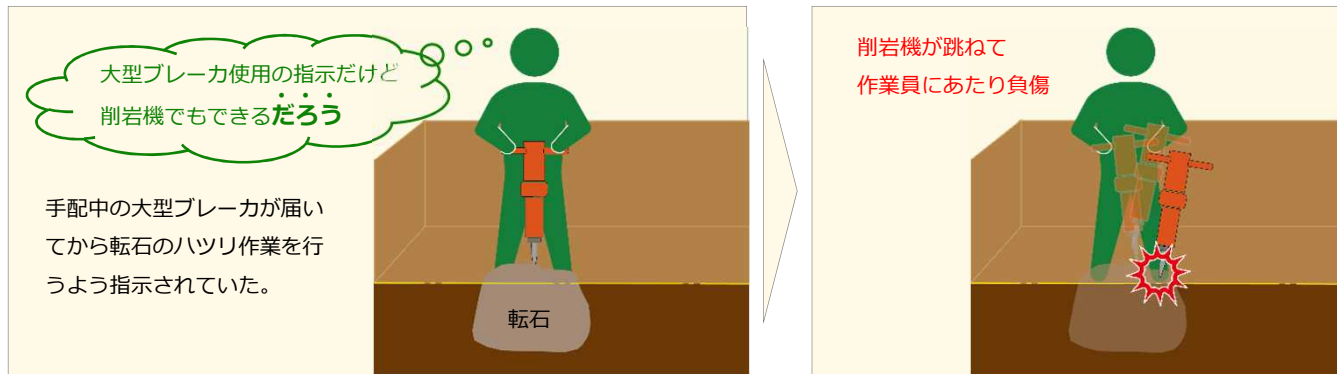
- 重機を使用して作業を行っているときは危険性の高さを認識して、十分な注意を払っているものです。しかし移動時等、直接作業をしていない時の事故も多く発生しています。
- **リスクが低いという認識が油断を生じさせてしまう**ものです。単なる移動であっても、危険が潜んでいることを心に留めておくことが大切です。

「○○だろう」は事故のもと

～過去の経験からの安易な推測・行動は事故につながります～

作業に慣れて気がゆるみ、手順を守らなかったり、簡略化してしまうなど「経験に依存して判断を誤る」「思い込みにより判断を誤る」ことは、日常生活でも起こり得ることです。しかし、建設現場では取り返しのつかない大きな事故につながることがあります。慣れた時こそ施工計画書や作業手順書に沿って作業するようにしましょう。

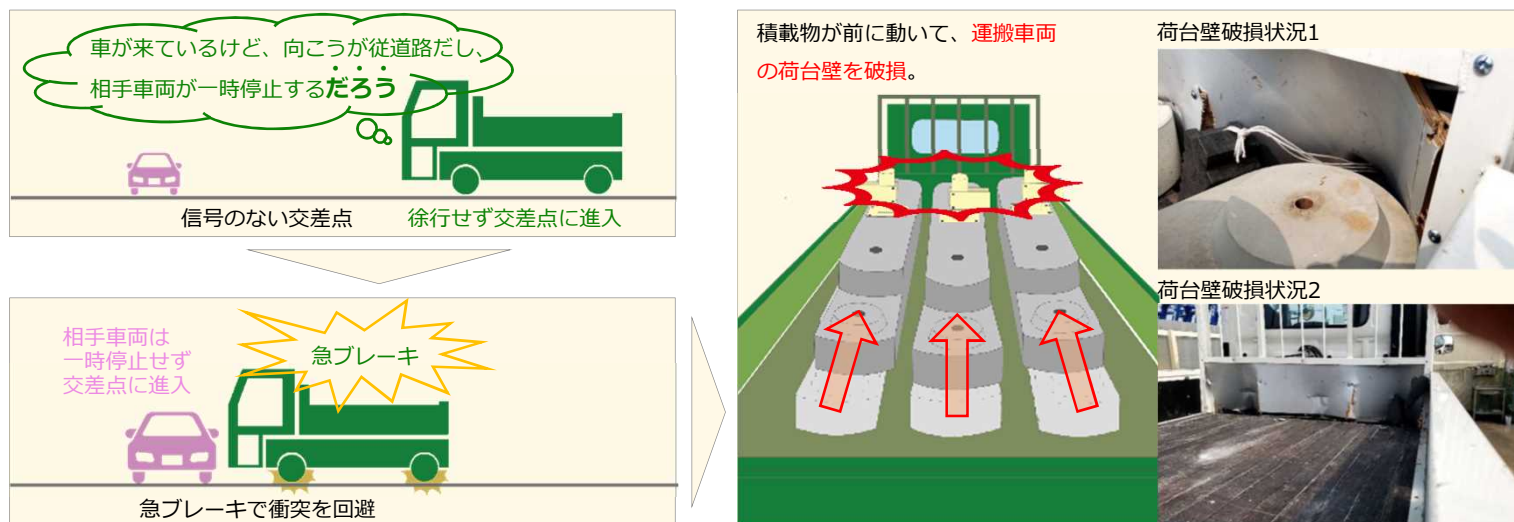
事例1 指示を無視して作業を行い被災



【事故概要】 鋼矢板打設中、転石が出現したため、ハツリ作業用の大型ブレーカを手配。事故前日と当日に、ハツリ作業は大型ブレーカが届いてから、大型ブレーカを用いて作業するように指示していたが、手持ち無沙汰になった作業員が、常備していた削岩機でも対処できるのではないかと、試したところ、削岩機が跳ねて作業員の左足甲に当たり、負傷した。

- 【主な要因】 ①作業指示の無視。
②作業員の不注意。

事例2 思い込み運転による自損事故



【事故概要】 4tトラックで片側4車線の信号のない交差点に差し掛かった際、従道路を走行している乗用車を認識したものの、運転手は相手車両が一時停止するだろうと思い込み、徐行せずに交差点に進入。乗用車も一時停止することなく交差点に進入したため、衝突しそうになり、急ブレーキで衝突を回避。急ブレーキの衝撃で、積載していた仮設ガードレール基礎が荷台の中で前方に移動し、トラックの荷台壁を破損した。

- 【主な要因】 ①運転手が思い込みによる運転を行った。
②安定した重量物であったため、ワイヤーロープによるトラックへの固定が無かった。

ヒヤリ・ハットを活かしましょう

- ・ **ヒヤリ・ハットの段階で危険の芽を摘むことが重要**です。
- ・ ヒヤリ・ハットの経験を共有することで、お互いに「勘違い」「思い込み」のミスが起こる状況が分かり、改善しなければならない点や、気を付けなければならない点が明らかになります。
- ・ 気になることがあったら立ち止まって確認し、改善するようにしましょう。**現場全体で不安全行動を引き起こす環境を作り出さないようにすることが大切**です。